

14 集客施設における避難の状況（松田）

14.1 天神地下街

天神地下街では 10 時 53 分の地震発生直後にエレベータの停止とスロッシングによる蓄熱槽の水位異常で防災センターの警報が鳴った。しかし、監視用のビデオによれば火災等の発生もなかったため地震終了後 20 秒程度で通常の状態に戻ったということである。11 時 5 分にはエレベータの点検も終えた。しかし、11 時 35 分に津波注意報と周辺の商業施設の営業状況を考慮して営業中止を決定し避難アナウンスを開始した。避難誘導は市役所西広場とのことである。12 時 4 分には地下鉄七隈線天神南駅との連絡通路閉鎖、12 時 10 分には地下鉄空港線天神駅との連絡通路を閉鎖し、12 時 26 分に全シャッターを閉鎖して避難を完了した。避難開始から避難終了まで約 50 分の時間を要している理由は地下街各店舗の施錠に時間を要したためである。買い物客の避難は特に混乱もなく整然と行われたようである。天神地下街では平成 17 年 2 月の拡張に伴い、全店舗でオール電化となりガスによる火災のリスクはゼロとなっている。避難誘導員は 50 名程度確保されており、これまでも火災等を念頭に置いた避難訓練は定期的に行われてきている。しかし、地震を想定した訓練は行われてはいないとのことである。

14.2 百貨店

天神地区にある I 百貨店は地上 7 階、地下 2 階の本館と地上 8 階、地下 2 階の新館からなる。当日は休日で本館 7 階で催し物もあり、10 時の開店から買い物客が詰めかけ、地震発生時で本館、新館あわせて約 3000 名の買い物客と 3000 名程度の社員、関連会社社員、派遣スタッフ等が館内にいた。館内設置の防犯ビデオによれば 10 時 53 分の地震発生直後から約 15～20 秒程度は激しい揺れに見舞われ、特に 6 階以上では陳列棚の転倒や破損、商品の落下が発生し、足払いのような状態で転倒する買い物客が多数出たということである。対策本部では状況の把握に約 5 分程度を要したのち、速やかに避難誘導を開始した。幸い火災の発生はなかったため、防火シャッターは作動せず停止したエスカレータと 1 フロアに 11 ヶ所ある非常階段を利用して避難が行われた。買い物客の避難が約 20 分、社員他が全員避難するのに約 40 分を要したとのことである。避難そのものは特に混乱もなく整然と行われたとのことである。避難誘導場所は近くの警固公園である。通常の防災訓練は年 1 回、社員、関連会社社員全員が参加して行われるとの事で、当日も各フロア 200 名程度の社員他が避難誘導にあたったとのことである。対策本部では上層回の被害状況等を踏まえ、13 時に臨時休業を決定した。今後は社内の危機管理委員会において系列の在京の百貨店の地震対応マニュアルを参考に地震時の対応をマニュアル化する方針との事であった。また、陳列棚、書棚、ロッカー等は固定金具で固定して耐震性を高めるとのことであった。

14.3 福岡市総合図書館

総合図書館は百道地区の埋立地にある地上 4 階の建物である。1, 2 階が市民に開放されているスペースで、当日は約 900 名の来館者が建物内にいたと言う事である。10 時 53 分の地震の際には、揺れそのものは 1 階, 2 階では大きくなかったため、防火シャッターが誤動作で一部下りたりしたため、来館者に冷静な行動を取るようアナウンスしたとのことである。地震終了後は通常の状態に戻ったが、自主的な帰宅も始まった。書庫のある 3 階と 4 階では揺れも相対的に大きく書籍の落下が多数発生した。地震発生から約 40 分後に、余震等による二次災害を考慮して当直の管理職の判断により閉館を決定し、アナウンスしたとのことである。来館者の退出は 5~10 分程度で速やかに行われた。避難誘導は 1 フロア 10 名程度の職員が対応したとの事。避難通路は各階に 5 箇所程度ある。避難場所は近くの中央公園であるが特に避難誘導は行われていない。職員は市の防災マニュアルに基づきその後も館内で待機したとのことである。

14.4 福岡市博物館

福岡市博物館は総合図書館に隣接する 2 階建ての建物である。地震当日はシルクロード展が開催中で約 200 名程度の来館者がいたという。10 時 53 分の地震直後は全館が停電し、非常用電源の立ち上がりも遅れたため約 5 分間は館内放送も使用できなかった。このため当直の職員、コンパニオン、警備員が口頭で館外への避難誘導を行った。避難誘導場所は正面玄関前の広場である。約 200 名の来館者は 5 分程度で速やかに屋外へ退出したとのことである。2 月に火災を対象とした避難誘導訓練を行ったとのことであるが、緊急対応マニュアルには地震対策は考慮されておらず、今後検討するとのことであった。建物は軽微な損傷程度であったが、展示物の一部が被害にあった。保険は適用外との事。職員は夜 9 時まで館内に待機して一時帰宅した。

14.5 福岡タワー

福岡タワーは早良区の百道地区にある頂部に塔体を有する高さ 234m の鉄骨造のタワーで、展望室が高さ 123m の位置にある。2 機のエレベータがあり、地震時にはエレベータに設置された加速度計により、震度 3 程度以下の地震の際には最寄階にて 1 分間停止、震度 4 程度以上の地震の際には即停止するように制御されている。地震発生時はエレベータが移動中だったため即停止して、コンパニオンを含む来館者がエレベータ内に閉じ込められた。展望室には当時 5 名の来館者がいたが 3 名は非常階段で自主避難、残り 2 名は警備員が非常階段で上り避難誘導したとの事である。避難時間は約 10~15 分との事。火災を想定した避難訓練は年 2 回行われている。エレベータの再起動は職員も訓練を受けており操作可能ではあったが、地震の規模が大きかったこともあり、安全を優先してエレベータのメンテナンス会社社員の到着を待った。メンテナンス会社の被災や道路渋滞等の影響で閉じ込められた来館者の開放にはやや時間を要したの事であった。今後は余震対応を含めエレ

ベータ操作の訓練の充実を図るとのことであった。

14.6 博多座

博多座は博多区の下川端にある劇場で、地震発生時の10時53分は11時の開演7分前で、1400ある客席は満席であった。劇場は11階建ての建物の4階から6階にかけて入っているが、地震時の揺れそのものは大きくなかったとの事である。観客席の混乱は特になく、まず社員を落ち着かせるために客席誘導に使用されている携帯無線で建物の耐震性が高く安全であることを周知徹底したとのことである。10時57分には設備上の異常は認められないことが確認されたため、11時7分に「しばらくお待ちくださいの」アナウンスを行った。11時25分には余震による二次災害等を考慮して講演中止を決定した。11時30分に舞台上より講演中止のアナウンスを行った。帰宅困難者もいたため劇場内に残ることを認め、適宜、地震情報や交通情報をアナウンスしたとの事。最後の観客が劇場を後にしたのは15時50分。講演中止のアナウンスにより通常終演時と同様に自然解散したとの事で、特に避難誘導は行われていない。火災を対象とした避難訓練は年数回行っているが地震対応は想定されていない。避難誘導にあたる職員は60名程度確保されているとの事、避難誘導場所は近くの冷泉公園。

14.7 市民会館

福岡市民会館は天神地区にあるホールで大ホール1770席、小ホール354席を有する施設である。築41年の建物で地震当日は幸い催し物は行われておらず、外部の来場者はリハーサルのための20名程度であった。地震後は当直の職員数名で相談し、津波注意報を考慮して3階へ避難誘導したとの事。来場者は限られていたため職員が直接声をかけて回り状況を確認した。避難は15分程度で速やかに行われたとの事。防災訓練は年1回行われているが、地震は考慮されておらず当直の職員の方々はどのように判断を下すか苦慮されたとの事。

14.8 菜の花祭り

博多湾東部海域に埋め立てで造成されたアイランドシティで菜の花祭りが開催中であった。地震当日はバスやマイカーで延べ1300名の入場者があり、地震発生時でも500～700名の人々が会場内にいたと思われる。現地の地震時の揺れは大きくなかったため地震後も市民は冷静であったとの事である。主催者側は、パニック等が起こらないよう現場の安全確保を最優先に考えた。地震終了後もイベントは継続されたが、13時過ぎに天候の悪化や余震を考慮してイベント中止が決定された。約20分ですべての来場者は退場した。

今回聞き取り調査を行った範囲では、これまで地震の被害が少なかった福岡ということもあり地震を想定した避難誘導マニュアルはどの組織においても、十分には整備されてい

なかった。聞き取り調査の中で問題として感じたことは当直の職員の方々が限られた情報の中で、避難の判断を迫られ非常に苦慮されているという点である。特に今回の地震では津波注意報も発令されており、屋外の広域避難場所に誘導すべきか、上層階へ避難させるべきかは、非常に高度な判断を要する状況であった。今後は今回の地震で得られた貴重な知見に基づき、避難誘導マニュアルの改善を行い都市の防災力を向上させる必要があると考えられる。